

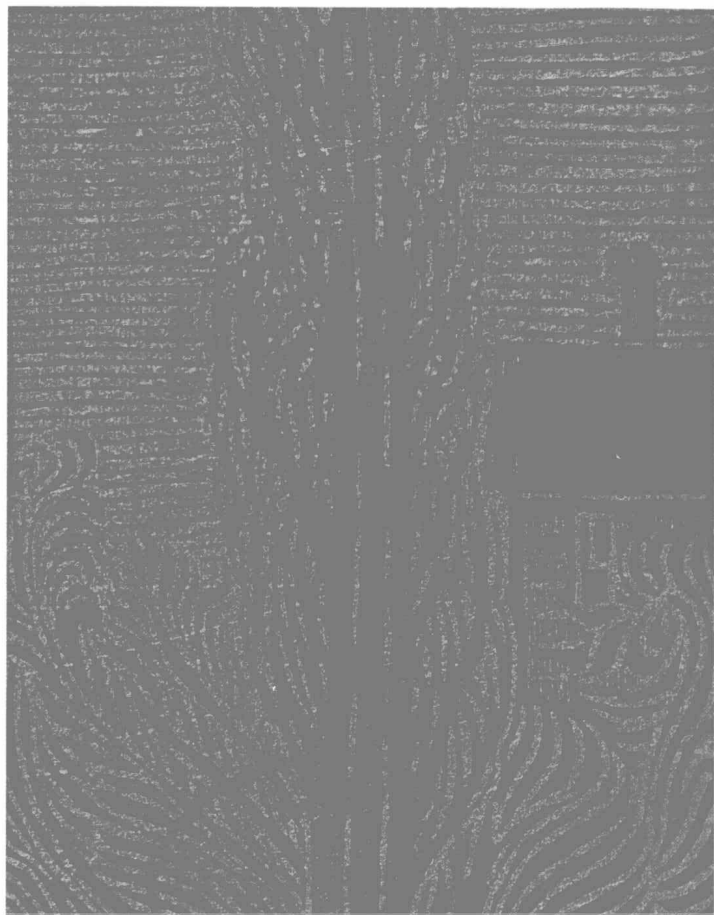
腐りゆく天使

夢枕 獏



腐りゆく天使 夢枕獏

文藝春秋



腐^{くさ}りゆ^{てんし}く天使

発行日 平成12年10月30日 第一刷

著者

ゆめまくらばく
夢枕獯

発行者

寺田英視

発行所

株式会社

文藝春秋

電話

東京都千代田区紀尾井町三一二三
(〇三) 三二六五・一二一一

印刷所

凸版印刷株式会社

製本所

大口製本印刷株式会社

定価はカバーに表示してあります。万一、落丁、乱丁の場合は送料当方負担でお取り替えます。小社営業部宛お送りください。

©Baku YUMEMAKURA 2000 Printed in Japan ISBN4-16-319620-X

本体1905円

目次

序章 月に吠える…… 9

記憶の消失したる魂の独白

14

1章 青猫…… 25

或る神父の告白

31

或る魂の独白

46

或る詩人の手紙

57

2章 蝶を夢む…… 73

憂鬱なる魂の独白

78

淋しげなる神父の告白

89

哀しげなる詩人の手紙

98

3章 純情小曲集……113

青白き魂の独白 117

憂^{うれ}ひ深き神父の告白

暗澹たる詩人の手紙 134 127

4章 氷島……151

せんちめんたるなる魂の独白 150

心疲れし神父の告白 105

のすたるぢやといふ病にかかりたる詩人の手紙 173

5章 さびしい情慾……183

傷^{いた}ましき魂の独白 188

哀れなる神父の告白 199

もの狂ひせし詩人の手紙 209

6 章

我のみの聖なる遊戯……… 223

ゆきどころなき魂の独白 228

心苦しき神父の告白 239

しめやかなる雨中の詩人の手紙

251

7 章

猫町……… 261

ほのじろき魂の独白 266

心飢ゑたる神父の告白 281

彷徨へる詩人の手紙 294

8 章

ソライロノハナ……… 307

肉腐りたる魂の独白

心病みたる神父の告白

くるほしき詩人の手紙

312

9 章 艶めける靈魂…… 341

月を病みたる詩人の手紙

346

死を夢見たる神父の手紙

380

哭きながら目醒めたる魂の独白

390

終章 さびしい青猫…… 397

奇態なる詩人の手紙

402

金沢の詩人からの手紙

424

めらんこりいの詩人の詩

432

秋の日のヴィオロンのごとき作者のあとがき……

435

装画 川上澄生

「飛んでゐる昆虫」一九三二（カバー）
「煙突のある家」一九二二（飾り扉）
―― 栃木県立美術館所蔵
装本 祖父江慎＋コズフィッシュ

腐
り
ゆ
く
天
使

序
章

月に吠える

昔の戀人のことばかり夢に見て居た。その昔の死んだ女は、いつも紅色の衣裝をきて、春夜の墓場をなまぐさく歩いて居た。

萩原朔太郎

「青猫を書いた頃」より

地面の底の病氣の顔

地面の底に顔があらはれ、
さみしい病人の顔があらはれ。

地面の底のくらやみに、

うらうら草の莖が萌えそめ、

鼠の巢が萌えそめ、

巢にこんがらかつてゐる、

かすしれぬ髪の毛がふるへ出し、

冬至のころの、

さびしい病氣の地面から、

ほそい青竹の根が生えそめ、

生えそめ、

それがじつにあはれふかくみえ、

けぶれるごとくに視え、

じつに、じつに、あはれふかげに視え。

地面の底のくらやみに、
さみしい病人の顔があらはれ。

萩原朔太郎
『月に吠える』より

記憶の消失したる魂の独白

この七年もの間、わたしが考え続けていたのは、いったい、誰がわたしをここに埋めたのかということだ。

誰がわたしをここへ埋めたのか。わたしはいったい誰であるのか。

考える、といつても、いったい何を使ってわたしは考えているのだろうか。わたしは、脳で考えているのだろうか。それとも、頭の中の湿った土で考えているのだろうか。

ああ、それは、これまで何度も考えたように、どちらでもいいことだ。何故なら、わたしは今考えているからであり、そのことこそが重要なのだ。考えているのが脳であろうが、頭蓋骨ずがいこつの中にぎっしり詰まった土であろうが、どっちでもいい。

たぶん、今は、春なのだろう。

何故、それがわかるのかというと、それは、上の方から、湿った冷たいものが、じくじくとわたしの透き間だらけのあばら骨の間にまで流れてくるからだ。わたしの埋められている地面の上に、まだ雪が残っていて、それが解け、冷たい水が地面に染み込んで、土の中を伝わってこちらへ流れてくるのである。

だから、今は春なのだ。

冷たい雪解けの水が、土を伝わってくる速度は、蛞蝓なめくじが這うよりもゆっくりとしている。し